



Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム招へい (南米グループ) の記録

テーマ：学術交流

1. プログラム概要

【目的】中南米外交イニシアティブにおける「人的交流」に焦点をあて、南米の大学の国際交流部署の職員ないし日本を中心とするアジア研究者を招へいし、日本の高等教育システム及び国際交流の現場を視察し、関係者と意見交換することで、大学等の高等教育間の連携を模索しました。ペルー、チリ、アルゼンチンのように学長会議や交換留学等の大学間での交流枠組みが存在する国では、更なる活性化に向けて、同枠組みがない国では新規開拓を目指し、実施しました。

【参加者】

以下 8 カ国の社会人 計 11名

アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、コロンビア、チリ、パラグアイ、ベネズエラ、ペルー

* 順不順

【訪問地】

東京都、京都府

2. 日程

■ 事前学習（オンライン）：

9月24日 来日前オリエンテーション、本プログラム事前説明

【オンライン】日本・異文化理解講義、日本語学習動画

■ 来日プログラム：

9月29日（日曜日） 入国

成田国際空港よりベネズエラ、コロンビア、アルゼンチン、パラグアイ訪日団入国
羽田空港よりエクアドル、チリ、ペルー訪日団入国

9月30日（月曜日）【オリエンテーション】来日時オリエンテーション

【テーマ関連講義】外務省

「我が国の国際関係及び外交」外務省中南米局 南米課 首席事務官 大滝紘生

【テーマ関連講義・視察】早稲田大学

・概要説明：エルウッド・ケイト国際部長 商学学術院教授

・国際教養学部説明およびディスカッション

生井健一教授 国際学術院国際教養学部教務担当教務主任（言語学）

間藤茂子教授 国際学術院国際教養学部

・施設見学

- 10月1日（火曜日）【テーマ関連講義・視察】筑波大学
- ・筑波大学国際局長表敬訪問および大学概要説明
大根田修国際局長
福重瑞穂南米拠点副拠点長
遅野井茂雄名誉教授
箕輪真理特命教授
関本啓子国際室担当課長
 - ・筑波大学南米スペイン語圏留学生との懇談
 - ・国際総合睡眠医科学研究機構 施設見学
-望月貴年教授 国際総合睡眠医科学研究機構事務部門長

- 10月2日（水曜日） 東京より京都へ移動
【テーマ関連講義・視察】
精華大学
大学概要説明及び施設見学
北脇学 グローバル推進グループ参事
ディスカッション
大羽勇憲 グローバル推進グループ
【視察】金閣寺

- 10月3日（木曜日） 【テーマ関連視察】
京都国際マンガミュージアム
錦市場
京都より東京へ移動

- 10月4日（金曜日） 【報告会】

- 10月5日（土曜日）成田国際空港よりベネズエラ、チリ、コロンビア、アルゼンチン、パラグアイ訪日団出国
羽田空港よりチリ、ウルグアイ、エクアドル、ペルー訪日団出国

3. プログラム記録写真来日前事前学習・到着時オリエンテーション



来日プログラム



9月30日【テーマ関連講義】外務省



9月30日【テーマ関連講義・視察】早稲田大学



10月1日【テーマ関連講義・視察】筑波大学
表敬訪問



10月2日【テーマ関連講義・視察】筑波大学大
南米スペイン語圏留学生との懇談



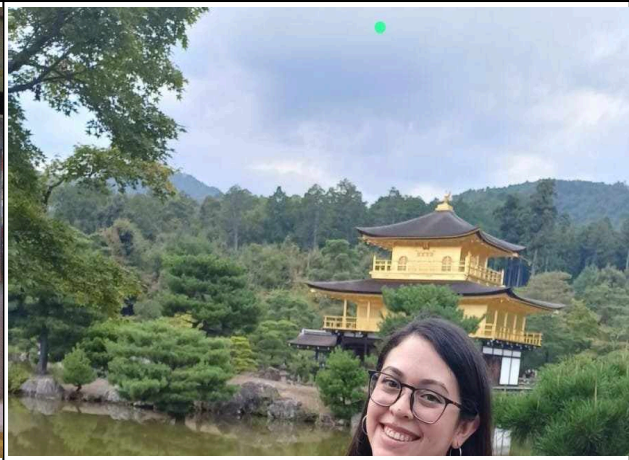
10月1日【テーマ関連講義・視察】国際総合
睡眠医科学研究機構 施設見学



10月2日【テーマ関連講義・視察】精華大学



10月2日【テーマ関連講義・視察】精華大学



10月2日【視察】金閣寺



10月3日【視察】錦市場



10月4日【報告会】プレゼンテーションの様子

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ ベネズエラ社会人

日本の大学を訪問し、そのチームと直接つながる機会が貴重であった。これにより、大学間の学術協力の始まりとなる可能性のある直接的な交流に繋がると期待している。

◆ ウルグアイ社会人

複数のそれぞれ異なる大学を視察、意見交換をしたことは帰国後の交流持続も含めて大変有益であった。

◆ ペルー社会人

大学での意見交換ならびにキャンパスライフを見ることが出来たことは、大変実りが多かった。

5. 報告会でのアクション・プラン発表（抜粋）

南米グループ

<エクアドル>

1. 早稲田大学との連携を確立する。
2. インターナショナル ビジネス クラスで COIL を開始します。
3. UEES での日本語サポート。
4. この経験に参加した姉妹大学との距離を縮めます。
5. 在エクアドル日本大使館を通じた文化的接近の促進

<チリ>

1. チリ・日本フォーラム期間中に学生向けのセミナーを提案する。
 2. チリにおける普及の一形態として、マンガおよび関連するキャリアに関するプレゼンテーションのオプションを検討します。
 3. 訪問した大学のいずれかと共同オンライン コース (COIL) を作成します。
 4. 共同研究の可能性を探るため、筑波大学と対話を開始します。特にラテンアメリカ研究と食糧安全保障。
 5. 学生向けのモビリティ プログラムを再開します。
 6. 在チリ日本大使によるUCチリコミュニティ向けプレゼンテーションを企画します。
 7. 在チリ日本大使館と連携して「ジャパンウィーク」をコーディネート。
- チリ大学運営委員会と国際関係副学長室への訪問についてプレゼンテーションを行います。

<ウルグアイ>

1. UCU と日本の大学の二国間協力の促進。
2. キャンパス間での教育を目的とした日本の文化教育を計画し、ウルグアイのエスコジャンを支援します。
3. ベラノ/インビエルノの最新情報を探索します。
4. 2025 年 2 月の UCU の日本副学長との訪問計画の協力。

<パラグアイ>

1. 大学内のさまざまな学部や研究センターとの日本での交流と学習の機会を広めます。
2. 2024年にパラグアイ、ブラジル、アルゼンチンの国境でフェアを開催する「日本留学」プログラムに協力します。3.
3. 私の大学の協定部門と協力して、2024 年までに訪問した 3 大学との協力プロトコルの確立を進めます。
4. 日本の大学、特に外務省のプログラムで訪問した大学からの大学院生のオファーを、政府からの大学院生奨学金を申請する候補先として組み込む。

実施団体名：公益財団法人 AFS 日本協会